

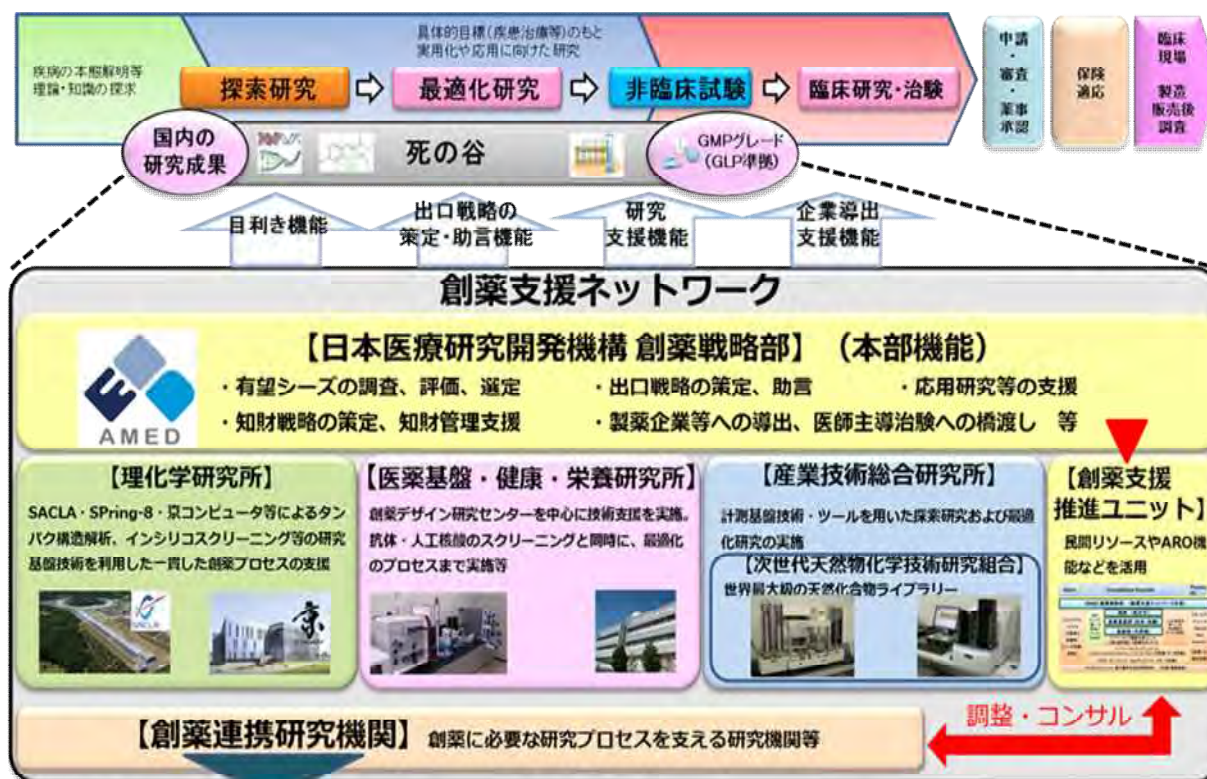
Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項 ①組織・人員体制の整備



①-2 創薬支援ネットワーク機能の強化等のための「創薬支援推進ユニット」の整備

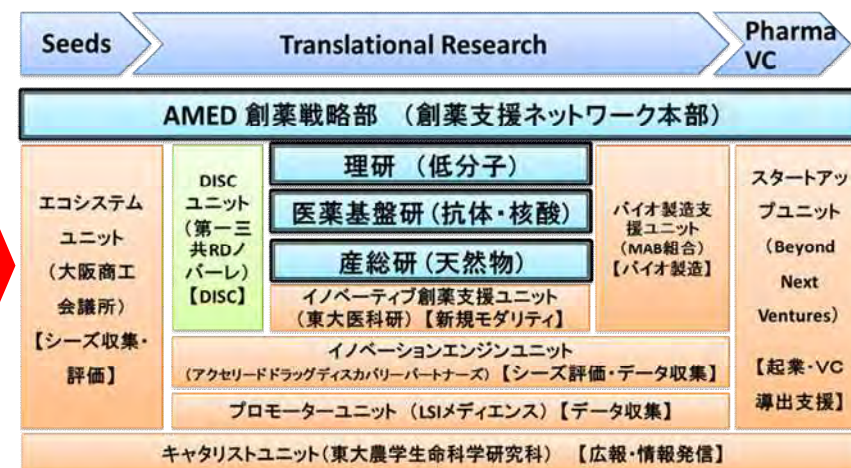
創薬戦略部の整備により、創薬研究の推進に資する貴重な民間リソースやARO機能等を有機的に結びつけ、創薬支援ネットワーク機能の強化ひいては医薬品創出の推進力を強化するために「創薬支援推進ユニット」として8機関を採択し、利用を開始した。

創薬支援ネットワークの体制



CRO、製薬企業等の設備・技術 (創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業も一部含む)

創薬支援推進ユニット



Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

①組織・人員体制の整備



⑦-1 PD,PS,PO等の産学官からの登用

PD、PS、POの委嘱件数(平成30年3月31日時点)

合計	PD	PS	PO
243名	9名	55名	179名

⑦-2 利益相反・透明性に配慮した外部人材の登用

HPに利益相反の規則等を公表している

https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/riekisohan_kanri.html

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

①組織・人員体制の整備

評価軸

AMEDに求められる機能を果たすため、適切かつ柔軟な組織・人員体制を整備したか。

- ・「オールジャパンでの医薬品創出」プロジェクトの推進体制を整備するため、民間リソースの活用による支援機能の強化や、関係課室の集約・一本化を図るとともに、同プロジェクトと他のAMED事業との連携を進め、AMED全体の創薬シーズの横断的評価や戦略立案を行う体制を構築し、創薬シーズの発掘・支援を促進することにより、オールAMEDでの革新的医薬品開発の更なる加速を目指して、「創薬戦略部」を整備する組織改編を行った。(平成29年7月)
- ・今後の進展が見込めるICT、AIの基盤整備を行う部署として、臨床研究・治験基盤事業部臨床研究課に「ICT基盤研究グループ」を設置し、AMEDにおける組織的な受け皿を構築した。(平成29年7月)
- ・基盤研究の関係課を集約し、基盤研究を横割りで担う「基盤研究事業部」を整備した。(平成29年4月)
- ・AMS(AMED研究開発マネジメントシステム)を構築し、エビデンスベースの事業企画、事業マネジメント、施策提案等の機能を目指すため、機構横断的な組織として、「情報分析企画室」(統括役が室長)を設置した。(平成29年4月)
- ・医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)を本格的に稼働させるため、「出資金事業準備室」から「革新基盤創成事業部」へ組織を増員して改組した。(平成29年4月)
- ・統合プロジェクト等の事業間における横断的事項の企画立案及び調整に関する機能を強化するため、統括役の下に「事業統括室」を設置。国際レビュー導入へ支援・推進等の事業横断的業務を開始した。(平成30年2月)

評価軸

高度の専門性が必要とされる者については、産学官からの優れた人材の登用を積極的に行ったか。

- ・PD/PS/POは、機構に求められる機能である優れた基礎研究の成果を臨床研究・産業化につなげる一貫した研究開発マネジメントの中心的な役割として、優れた学識経験や研究開発の実績等を有し、研究開発課題の評価及び業務運営に関して見識を有する専門家を産・学・官の各分野から厳正に人選し、登用した。

評価軸

利益相反の防止や透明性の確保にも配慮しつつ、外部人材を登用したか。

- ・利益相反の防止について利益相反マネジメントルールを適切に運用し、PD/PS/PO、評価委員の一覧をHPにおいて公表して透明性に配慮して、外部人材の登用を実施した。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項

(1) 業務改善の取り組みに関する事項

②PDCAサイクルの徹底

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

②PDCAサイクルの徹底



評価(自己評価)

B

目標・計画に基づき、①研究成果に係る中間・事後評価の実施、②年度計画に沿った進捗の把握と評価、③医療分野研究開発速度の最大化に資する進捗管理、④研究評価・課題管理の改善に向けた検討に基づく取組を着実に実施し、着実な業務運営がなされている。

①研究成果に係る中間・事後評価の実施

- ・ 中間・事後評価が必要な研究課題について、外部有識者により構成される「課題評価委員会」を123回開催。
- ・ 評価結果について、研究者にフィードバックし、また、適切に公表するとともに、追加配賦の課題選択、翌年度の研究費の配分、研究課題や事業の改善に活用。
- ・ 評価の実施に当たり、必要と認めた課題をヒアリング審査対象とする等、効率的な評価を実施。

③医療分野研究開発速度の最大化に資する進捗管理

- ・ 課題の進捗管理については実用化を見据えた目標設定やスケジュール管理を実施。
- ・ ヒアリングやサイトビジット、班会議への参加などを行い研究開発の進捗状況の把握、研究代表者への指導、助言を行い、適切な課題管理を実施。
- ・ 医薬品研究開発マネジメントチェック項目を作成・活用することで、研究成果の実用化を目指した、研究開発速度の最大化に資する進捗管理を推進。

②年度計画に沿った進捗状況の把握と評価

②-1 業務と予算に関する会議

- ・ 年度計画の達成に向けて、定期的に業務の進捗状況を把握・管理する体制を構築し、実施。

②-2 自己評価委員会及び外部評価委員会

- ・ 平成28年度の業務実績の評価は内部メンバーで構成される自己評価委員会及び外部有識者で構成される外部評価委員会の2段階で評価を実施し、評価結果をHPで公表。

④研究評価・課題管理の改善に向けた検討に基づく取組の着実な実施

- ・ 平成28年度に導入した課題評価における10段階共通評価システムを、平成29年度においては各事業において実施。
- ・ 研究課題の重要なステージゲートにおいて実用化に必要な研究が着実に実施されているかの評価を行えるシステムづくりのため、医薬品の研究開発に関し、医薬品研究開発マネジメントチェック項目を作成・公表し、一部事業で運用を開始した。

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

②PDCAサイクルの徹底



評価軸

AMEDで行っている事業については厳格な評価を行い、不断の業務改善を行ったか。

- 中間・事後評価が必要な研究課題について、外部有識者により構成される「課題評価委員会」を123回開催。評価結果について、研究者にフィードバックし、また、適切に公表するとともに、追加配賦の課題選択、翌年度の研究費の配分、研究課題や事業の改善に活用。評価の実施に当たり、必要と認めた課題をヒアリング審査対象とする等、効率的な評価を実施。
- 外部有識者により構成される課題評価委員会を設置し、中間・事後評価を実施。
- P0の進捗管理のもと進捗に問題があると判断された課題や書面審査の結果必要と認めた課題をヒアリング審査の対象とするなど、効率的・効果的な評価の実施に努めた。また、中止等の判断を適切に行うため、中間評価を行う段階に至るまでの手続フローを作成・共有した。

評価軸

評価結果をその後の事業改善にフィードバックするなど、PDCAサイクルを徹底したか。

- 年度計画の達成に向けて、定期的に業務の進捗状況を把握・管理する体制を構築し、業務と予算に関する会議を実施。
- 平成28年度の業務実績の評価は内部メンバーで構成される自己評価委員会及び外部有識者で構成される外部評価委員会の2段階で評価を実施し、評価結果をHPで公表。

評価軸

研究者の研究活動の円滑化にも十分配慮し、医療研究開発速度の最大化に資する進捗管理を実現したか。

- 課題の進捗管理については実用化を見据えた目標設定やスケジュール管理を実施。
- ヒアリングやサイトビジット、班会議への参加などを行い研究開発の進捗状況の把握、研究代表者への指導、助言を行い、適切な課題管理を実施。
- 医薬品研究開発マネジメントチェック項目を作成・活用することで、研究成果の実用化を目指した、研究開発速度の最大化に資する進捗管理を推進。
- 研究開発提案書を府省共通様式に統一するとともに、年度報告の簡素化や、事後評価資料を活用した総括報告の充実・効率化を実施し、研究者の研究活動の円滑化、及びPD・PS・P0の効率的・効果的な進捗管理に寄与。
- 研究代表者が提出する進捗状況申告書等を基に、各領域担当のPS、P0や外部有識者とともに研究代表者へのヒアリングやサイトビジット、班会議への参加等を行い、研究開発の進捗状況を把握し、必要に応じて研究代表者への指導、助言を行い、適切な課題管理に実施。
- 進捗管理の結果を踏まえて追加配賦や次年度の研究費配分を検討し追加配賦により研究の進展が期待できる課題の加速を図った。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項

(1) 業務改善の取り組みに関する事項

③適切な調達の実施

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

③適切な調達の実施



評価(自己評価)

B

目標・計画に基づき策定した、平成29年度の「調達等合理化計画」に基づき、合理的な調達に向けた取組を着実に実施した結果、①平成28年度に比べ、随意契約の比率改善につながった。②また、ホームページでの各種情報の公表による公平性・透明性の確保などを行った。

① 契約実績

- 競争性のある契約のうち、一般競争入札の契約実績：118件
契約実績総数に占める割合 平成28年度 2.8% → 平成29年度 2.9% (+0.1ポイント改善)
- 競争性のない随意契約の契約実績：780件
契約実績総数に占める割合 平成28年度 19.7% → 平成29年度 19.3% (▲0.4ポイント改善)

②ホームページでの各種情報の公表

- ②-1 調達等合理化計画、契約監視委員会における審議概要、中小企業者に関する契約の方針、環境物品等の調達方針及び調達実績、競争入札結果・随意契約情報等各種契約実績等
- ②-2 ホームページでの入札公告の公示、仕様書・入札説明書等の頒布等

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

③適切な調達の実施

①契約実績

- 競争性のある契約のうち、一般競争入札の契約実績：118件
契約実績総数に占める割合 平成28年度 2.8% → 平成29年度 2.9% (+0.1ポイント改善)
- 競争性のない随意契約の契約実績：780件
契約実績総数に占める割合 平成28年度 19.7% → 平成29年度 19.3% (▲0.4ポイント改善)

平成29年度の国立研究開発法人日本医療研究開発機構の調達全体像 (単位：件、億円)

	平成28年度		平成29年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(2.8%) 116	(1.3%) 15	(2.9%) 118	(2.5%) 31	(0.1%) 2	(1.2%) 16
企画競争・公募	(77.5%) 3,220	(97.3%) 1,135	(77.8%) 3,152	(96.3%) 1,137	(0.3%) ▲68	(▲1.0%) 2
競争性のある契約(小計)	(80.3%) 3,336	(98.6%) 1,150	(80.7%) 3,270	(98.9%) 1,168	(0.4%) ▲66	(0.3%) 18
競争性のない随意契約	(19.7%) 818	(1.4%) 16	(19.3%) 780	(1.1%) 13	(▲0.4%) ▲38	(▲0.3%) ▲3
合 計	(100%) 4,154	(100%) 1,166	(100%) 4,050	(100%) 1,181	(0.0%) ▲104	(0.0%) 15

平成29年度の国立研究開発法人日本医療研究開発機構の調達全体像 (単位：件、億円)

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増△減の()書きは、平成29年度の対28年度差分である。

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

③適切な調達の実施

②ホームページでの各種情報の公表

- ②-1 調達等合理化計画、契約監視委員会における審議概要、中小企業者に関する契約の方針、環境物品等の調達方針及び調達実績、競争入札結果・随意契約情報等各種契約実績等

(ホームページでの情報公開の例)

調達等合理化計画に関する取組状況

調達等合理化計画

- 平成29年度 [PDF](#)
- 平成28年度 [PDF](#)
- 平成27年度 [PDF](#)

調達等合理化計画の進捗状況に関する

- 平成28年度 [PDF](#)

契約監視委員会における

詳細は以下のリンクをご覧ください。

- 平成29年度
- 平成28年度
- 平成27年度

中小企業者に関する契約の方針

- 平成29年度における国立研究開発法人日本医療
- 平成28年度における国立研究開発法人日本医療
- 平成27年度における国立研究開発法人日本医療

環境物品等の調達方針及び

- 環境物品等の調達の推進を図るための方針 [PDF](#)
- 平成28年度における環境物品等の調達実績 [PDF](#)
- 平成27年度における環境物品等の調達実績 [PDF](#)

競争入札結果の公表

- 一般競争入札の契約実績 [PDF](#)
- 低入札価格調査の実施概要 [PDF](#)

過去の契約分

- 平成28年度 [一般競争入札契約実績 PDF](#)、[低入札価格調査実施概要 PDF](#)

随意契約情報の公表

- 随意契約の契約実績 [PDF](#)

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

③適切な調達の実施

②-2 ホームページでの入札公告の公示、仕様書・入札説明書等の頒布等

(ホームページでの情報公開の例)



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

HOME > 調達情報トップ

調達情報検索

件名 (件名の一部でも可)

検索

物品・役務関係 RSS

物品関係

物品の購入等

役務関係

役務の提供 New

保守・リース保守

文字サイズの変更

大 中 小

調達情報マイページ

現在ログイン中です

AMEDの調達情報サイトへようこそ

このページは日本医療研究開発機構における調達情報左の各項目をクリックすると該当する情報を表示します

◆【問合せ先】
経理部 契約調整課
TEL: 03-6870-2208
FAX: 03-6870-2209
なお、各案件の調達要約ダウンロードは、AMED研究倫理ホームページの運用管理支援業務のダウンロードページから行えます。

現在募集中の調達情報

役務の提供 (4) 労働者派遣 (2)

現在募集中の調達情報の最新15件

現在募集中の一覧はこちら

調達形態	公告日	入札締切日	開札日	件名	調達場所
一般競争入札	平成30年04月12日	平成30年05月25日	平成30年05月25日	最高情報セキュリティアドバイザー業務	本部
				平成30年度研究開発提案書印刷及びファイリング業務	本部
				平成30年度ゲノム医療研究支援機能情報ポータルサイト支援業務	本部
				平成30年度労働者派遣(H30S04)〈単価契約〉	本部
				平成30年度労働者派遣(H30S02)〈単価契約〉	本部
				AMED研究倫理ホームページの運用管理支援業務	本部

調達情報 公開情報 詳細ページ

調達案件名 AMED研究倫理ホームページの運用管理支援業務

調達形態	公告日	入札締切日	開札日	調達場所	担当
一般競争入札	平成30年03月14日	平成30年04月26日	平成30年04月26日	本部	廣瀬 03-6870-2208

入札公告のダウンロード

AMED研究倫理ホームページの運用管理支援業務(PDF 版 102KB)

仕様書等の資料ダウンロード

仕様書(PDF 版 217KB)

入札説明書等(PDF 版 244KB)

技術審査資料(PDF 版 115KB)

その他1(XLS 版 56KB)

基本情報(はじめての方へ)

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

③適切な調達の実施



評価軸

公正性・透明性を確保しつつ、合理的な調達を実施したか。

目標・計画に基づき策定した、平成29年度の「調達等合理化計画」に基づき、合理的な調達に向けた取組を着実に実施した結果、平成28年度に比べ、随意契約の比率改善につながった。また、ホームページでの各種情報の公表による公平性・透明性の確保などを行った。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項

(1) 業務改善の取り組みに関する事項

④ 外部能力の活用

Ⅱ(1)業務改善の取組に関する事項

④外部能力の活用



評価(自己評価)

B

目標・計画に基づき、費用対効果、専門性等の観点から業務を精査し、外部能力の活用が適当と考えられる業務については外部委託を着実に実施し、着実な業務運営を実施している。

○費用対効果、専門性等の観点から業務を精査し、外部能力の活用が適当と考えられる業務について、外部委託を推進。平成29年度は546件を実施(平成27年度:460件、平成28年度:597件)。具体的な取組事例は次のとおり。

(取組事例)

■ 医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)では、次の取組を実施。

- 契約時の論点抽出と解決のため、複数の弁護士のレビューを経てから契約書を確定。
- 採択から契約までの間に、応募機関の財務状況の確認、シーズとなる知的財産の先行技術調査を外部機関に依頼。
- 今後の採択課題の管理、推進支援に必要となる専門的な情報収集を目的とした調査を外部機関に依頼。

■ 公開シンポジウム実施にあたり、情報セキュリティを考慮した申込みWebの構築、プログラム・抄録等の編集、動画配信等の業務を外部機関に委託し、効率的な運営と集客を実現。

■ 新財務会計システムの運用開始に向けて、仕様書作成に関与した外部機関に開発支援業務を外注し、専門的な見地から助言を得ながら着実な進捗管理を実現。

■ 革新的先端研究開発支援事業では、論文と研究分野の関連性分析調査や基礎のライフサイエンス領域における研究動向調査を専門機関へ外部委託し、新規研究開発領域の設定に活用。

等

Ⅱ(1)業務改善の取組に関する事項

④外部能力の活用



評価軸

外部の専門機関の活用が適当と考えられる業務を精査し、外部の専門機関の活用が適当と考えられる業務については、外部機関を活用したか。

- 費用対効果、専門性等の観点から業務を精査し、外部能力の活用が適当と考えられる業務について、外部委託を推進。平成29年度は546件を実施（平成27年度：460件、平成28年度：597件）。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項

(1) 業務改善の取り組みに関する事項

⑤業務の効率化

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

⑤業務の効率化

評価(自己評価)

B

①目標・計画に基づき、運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び事業費とも効率的な執行に努め、着実な経費の削減を実施し、②増加する業務に対応し業務の一層の効率化及び③給与制度、給与水準及び公表について適切に対応を図るなど、着実な業務運営がなされている。

①業務の効率化

- 運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び事業費とも効率的な執行に努め、着実な経費の削減を実施している。
- 一般管理費削減率、事業費削減率(対前年度予算額)＜モニタリング指標＞
(平成27年4月設立法人であるところ、業務の効率化指標については、立ち上げから業務が標準化に移行する平成29年度のものを使用する予定である。)

②総人件費

- 政府の方針に従い機構管理、定員管理及び人員配置を適切に行い、人事院勧告に基づく給与改定を行った。
- 増加する業務に対応し業務の一層の効率化を図るため、委嘱業務を派遣職員グループで引き続き実施し、事業部門の業務軽減による効率化、人員の増加抑制、人員配置の適正化を図った。

③給与制度、給与水準及び公表

- 給与制度は、類似の独立行政法人等の給与規則に準じた給与規程等を適正に運用し、規程類はホームページで機構内外へ公表している。
- 給与等の水準については、民間給与実態調査に基づく人事院勧告を踏まえ給与等を決定するなど適正化を図った。
- ラスパイレス指数を含めた給与水準の検証結果等公表は、平成28年度分について内容を分析・評価して公表した(平成29年6月)

Ⅱ(1)業務運営の効率化に関する事項

⑤業務の効率化



評価軸

給与水準については、ラスパイレス指数、役員報酬、給与規程、俸給表及び総人件費を公表するとともに、国民に対して納得が得られるよう説明したか。

- ・給与規程等(役員報酬規程、役員退職手当支給規程、定年制職員給与規程、任期制職員給与規程、職員退職手当支給規程及び在外職員の取扱に関する規則)はホームページで機構内外へ公表している。
- ・民間給与実態調査に基づく人事院勧告を踏まえ給与等を決定するなど給与等の水準の適正化を図った(平成29年度のラスパイレス指数: ○(年齢勘案)、○(年齢・地域・学歴勘案))。

評価軸

給与水準の検証を行い、これを維持する合理的な理由がない場合には必要な措置を講じることにより、給与水準の適正化に取り組み、その検証結果や取組状況を公表したか。

- ・給与制度は、類似する独立行政法人等の給与規則に準じた給与規程等を、人事院勧告等により改正を適時で行い適正に運用した。
- ・ラスパイレス指数を含めた給与水準の検証の実施及び結果等の公表については、平成28年度分について内容进行分析・評価して公表した(平成29年6月)。平成29年度分については給与支給額をもとに、同様に内容进行分析・評価して結果の公表を予定している(平成30年6月)。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項

(2) 業務の電子化に関する事項

Ⅱ(2)業務の電子化に関する事項



評価(自己評価)

B

機構設立時には必要最小限の情報システムから業務を開始したが、平成29年度は、前年度までの議論を踏まえ、業務運営の効率化だけでなく、制度利用者の利便性の向上に大きく寄与する重要な情報システム群を新規に開発し、導入した。①**オンライン課題評価システム**、②**新財務会計システム**の開発により、公募から契約・執行に係る一連の業務フローが電子化され、業務の効率化・迅速化を実現した。AMEDが助成する研究開発課題の成果を様々な視点から検索できるシステム③**AMEDfind**の開発、アカデミアの研究シーズと企業ニーズのマッチングの場を提供する④**AMEDぷらっと**の開発、及び、スマホ対応まで考慮して全面的に構成と機能を見直した⑤**AMEDホームページの刷新**により、制度利用者の利便性向上に大きく寄与した。また、基盤情報システムのセキュリティ運用支援業務の強化とバックアップデータの遠隔地保存により、不正侵入対策と災害対策を合わせて強化し、⑥**機構内情報ネットワークの充実**を図るなど、着実な業務運営がなされている。

①AMEDオンライン課題評価システム

- 各事業部の評価業務の見直しと10段階評価への統一等を踏まえ、評価業務全般の効率化、ペーパーレス化を推進するため、課題評価のオンライン化に関する開発・運用の体制を整備するため、総務部に課題評価支援システムグループを設置し(平成29年10月)、関係部門等と協議を重ね、要件定義及び基本設計を行い、小規模な範囲による試験運用を経て、AMEDオンライン課題評価システムを構築した。平成29年度における、これら取り組みにより平成30年4月からの本格運用につなげた。
- AMED課題評価委員(外部の専門家)は、必要な情報を前もって電子メールで受け取る必要がなく、システム内で随時参照しながら評価を実施することが可能となり、また、AMED職員は、課題評価(事前・中間・事後)の書面審査、面接審査の各工程における集計や資料作成を迅速化した。また、評価委員が利用する画面は、端末の言語環境を反映して日英二か国語に自動的に切替え可能とした他、公募課題に関する機密情報と評価委員等の個人情報を取り扱うため、情報セキュリティ機能を強化した仕様とした。

②新財務会計システム

- 契約ごとの予算執行状況を即時に把握できるよう、契約管理機能を内包する新財務会計システムを、コンサルティング会社による専門的な見地からの助言を得つつ、試験運用による様々な検証を経て、システム構築を行った。これら取り組みにより平成30年4月から本格運用につなげた。
- これにより、従来は手作業が必要であった委託研究契約単位、及び補助事業単位の予算執行管理が容易になり、研究開発課題の進捗管理が大幅に効率化される。

③AMSとAMED find

- AMEDの研究開発の課題と成果のデータベース化を進めるとともに、AMED内部利用にとどまらない、AMED外の研究者、市民等がインターネット経由で検索、閲覧ができる一般公開版のAMS(AMED find)を構築するため、公開項目の範囲、付与機能、運用方法等を決定の上、システム構築を行った。

- AMED findでは、疾患名等のキーワードや研究開発タグを用い、様々な視点で課題情報の検索・俯瞰が可能。
- 厚生労働科学研究成果データベースの研究課題・成果データを取り込みを行い、既に取り込み済のKAKEN(科学研究費助成事業データベース)とあわせ、AMEDを含めた3機関の研究開発課題を合わせた利用が可能とした。
- 分析基盤を強化するため、成果論文を分析し結果を可視化する機能を平成28年度に開発したが、平成29年度には、加えて研究開発課題を分析し可視化する機能の開発に着手した。

④AMEDぷらっと(シーズ・ニーズマッチングシステム)

- アカデミアの研究シーズ情報と企業ニーズ情報を蓄積・掲載することで相互のマッチングを図り、研究開発成果の早期実用化を促すことを目的とする新規ウェブシステム「AMEDぷらっと」を構築し、平成30年1月から関係機関の協力を得て試行を開始した。

⑤AMEDホームページ刷新

- 平成29年11月にAMEDホームページを刷新した。サイト内キーワード検索の強化、公募情報検索の充実、スマホでも見やすい画面の採用、公募進捗を俯瞰できるページの新設など、制度利用者の利便性を大幅に高めた。
- AMEDホームページのアクセス件数(ページビュー数)は着実に増加した。
28年度 約611万件 → 29年度 約720万件
* URLが <https://www.amed.go.jp/> で始まるコーポレートサイト

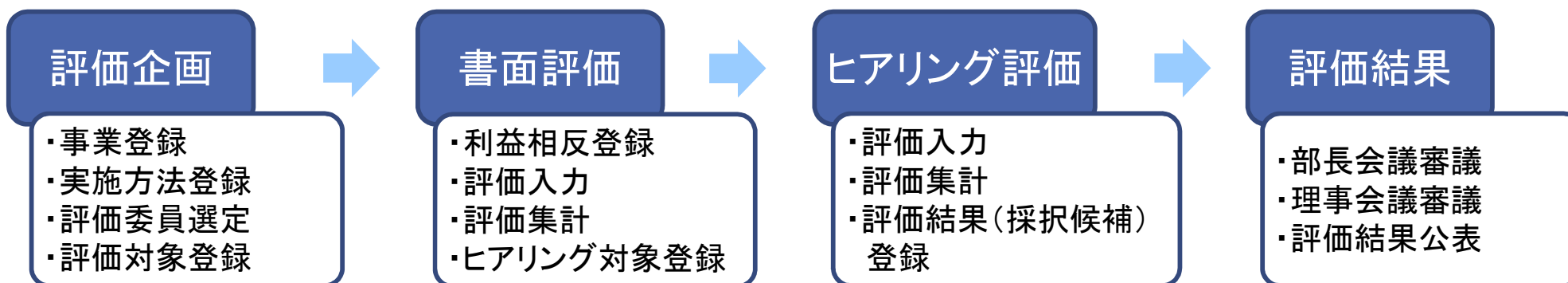
⑥機構内情報ネットワークの充実等

- セキュリティインシデント発生リスクの低減及び発生時の被害拡大防止を図るため、基盤情報システムの運用支援業務(外部委託)を拡充し、サイバー攻撃に精通したオペレーターとアナリストが、不正侵入防御装置のアラート及び各種システムのログを常時監視し、定期的に報告するサービスの利用を開始した。
- 想定を超える災害に備え、バックアップデータの遠隔地保存を開始した。

Ⅱ(2)業務の電子化に関する事項

① オンライン課題評価システム

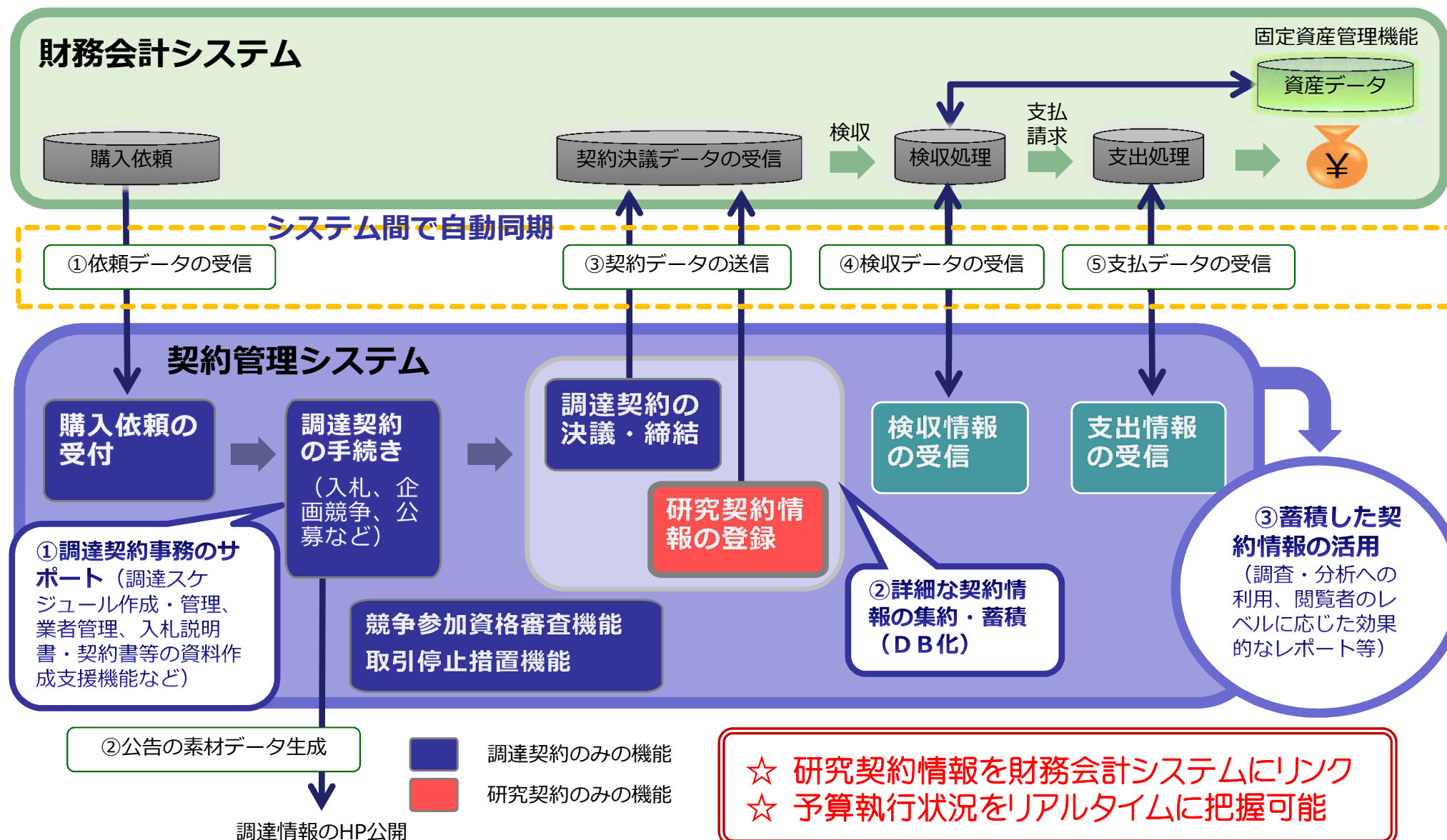
☆ 評価方法を標準化(10段階評価等)し、評価業務全般にわたリシステム化



業務の効率化	・ AMED担当者（自動集計、公募企画から採択までの工程管理、メール一斉送信等が可能） ・ 評価委員（書面審査は随時どこでも可能、資料の管理不要、メール添付不要） ・ ペーパーレス化
セキュリティ向上	・ 評価に必要な資料をメール配布不要 ⇒ 誤送信リスク低減 ・ 2要素認証、サイバー攻撃対策など、各種のセキュリティ機能を充実
他システムとの連携	・ e-Rad からダウンロードしたデータの読み込みが可能 ・ 評価結果をエクスポート可能 ⇒ AMS連携へ
日英二か国語対応	・ 国際 reviewer の活用に対応

Ⅱ(2)業務の電子化に関する事項

② 新財務会計システム



Ⅱ(2)業務の電子化に関する事項

③ AMED find

- ☆ AMEDが資金配分する研究開発課題の成果を検索可能な形で公開することで研究開発を更に促進
- ☆ 疾患名などのキーワード、研究開発タグを利用して様々な視点から情報の検索・俯瞰が可能

